



語彙力テストの開発と 実施結果について

浅野 茂 ; 藤原 宏司 ; 白石 哲也

(山形大学 学術研究院)

令和元年度IR実務担当者連絡会 報告資料

2019年11月14日 13:00~17:00

於：宮崎大学 木花キャンパス 創立330記念交流会館コンベンションホール

報告の目的と構成

山形大学では、学生の学びの到達度を直接評価する「基盤力テスト」を独自開発し、2018年度には新たに「語彙力テスト」を開発した。本発表では、語彙力テストの開発過程、並びに2019年度入学生を対象に実施した結果などについて報告する。

1. 基盤力テストの概要
2. 語彙力テストの開発概要と実施結果
3. まとめと今後の展望

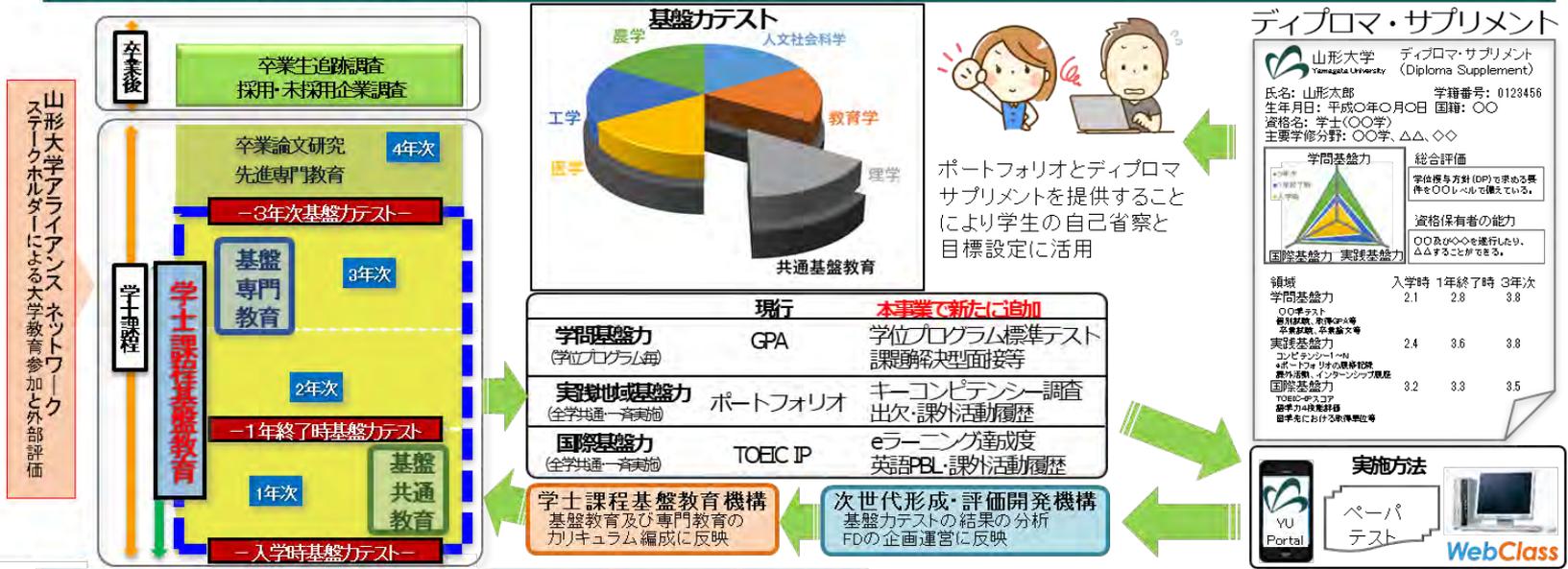
基盤力テストの概要

AP事業への採択

大学等名：山形大学
 テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）



全学横断の基盤力テスト及び山形大学アライアンスネットワークによるステークホルダー外部評価を通じた卒業時の質保証
 学修達成度を3年3回3種の基盤力テストで定量化、客観的な指標による教育の質保証とPDCAサイクルの実質化
 地域企業・自治体・教育委員会・保護者からなる山形大学アライアンスネットワークを母体に教育改善アドバイザリーボードを形成



【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	7時間	10時間	14時間	24時間
卒業生追跡調査の実施率 (調査回答者数/卒業者数)	7%	—	10%	15%
基盤力テストの実施率 (受験者/入学者数)	11%	86%	100%	100%

山形大学独自の基盤力テストの実施による直接評価をはじめとした教育指標の評価により教育改善を効率的に遂行
 ステークホルダー（地域企業・自治体・教育委員会・保護者）によるアドバイザリーボードが大学教育の評価と改善に積極的に関与
 インターンシップやPBL、フィールドワーク等の実践型・課題解決型授業を通して、学生の主体的・協働的な学びを充実
 学長主導の教学マネジメントによる全学統合的な3年一貫学士課程教育を実質化し、大学全体の教育パフォーマンスを向上

基盤力テストの目的と実施時期

- 学生の学習達成度を**直接評価**し、学士課程教育の効果を検証すること

山形大の学士課程教育

4年次

基盤力テスト（3年次）

2～3年次
基盤専門教育

基盤力テスト（2年始業時）

1年次
基盤共通教育

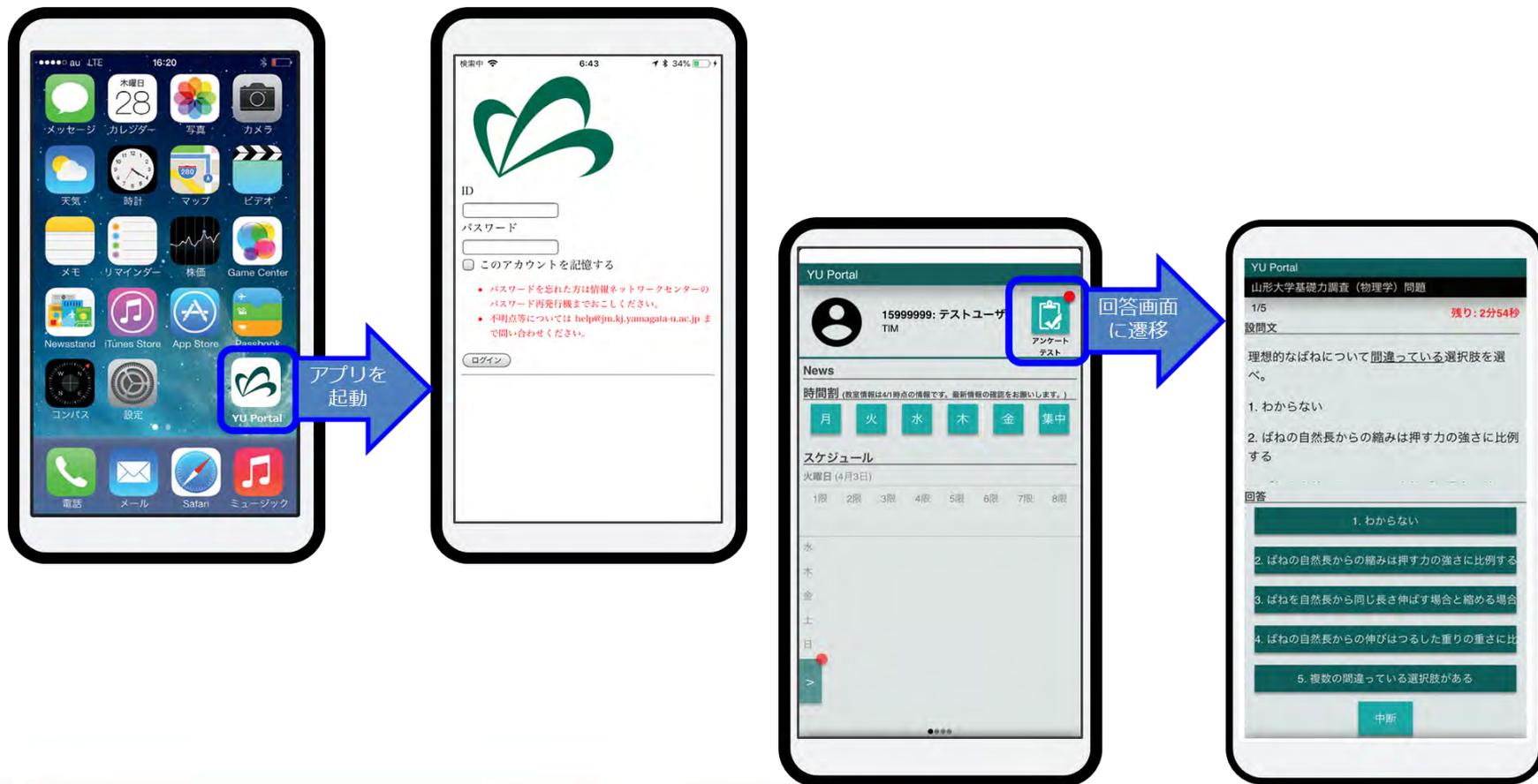
基盤力テスト（入学時）

基盤力テストの構成

- **学問基盤力テスト**—自律的に課題に取り組む専門力
 - 数的文章理解・語彙力・数学・物理学・化学・生物学
- **実践地域基盤力テスト**—社会でリーダーシップを発揮する人間力
 - 5因子性格調査
 - 出欠状況・ポートフォリオ（現存）
 - フィールドワーク・インターンシップ・課外活動実績
- **国際基盤力テスト**—実践的な英語で多様性に挑戦する国際力
 - TOEIC（現在2回実施）
 - eラーニング、留学等国際関係活動実績

基盤カテストの実施基盤

- スマートフォンアプリ（YU Portal）を独自開発



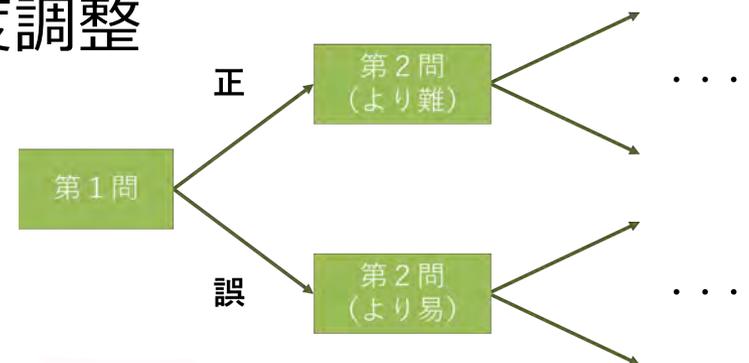
基盤力テストの実施形式（学問基盤力）

試験形式

- 試験時間は学生の負担を考慮して **5科目で30分程度**を想定
 - 出題数は各分野、**5問ずつ**
 - 設問毎の制限時間：**3分**

出題形式

- 項目反応理論（Item Response Theory, IRT）による、受験者の回答に応じた難易度調整



語彙力テストの 開発概要と実施結果

語彙力テスト開発の背景

• 学問基盤力テスト—自律的に課題に取り組む専門力

領域	人社	地教	理	医	工	農
数的文章理解・語彙力	○	○	○	○	○	○
数学・物理学・化学・生物学			○	○	○	○

- ・「学生の学習達成度を**直接評価**し、学士課程教育の効果を検証する」という基本思想を踏まえ、人社、地教の学生を対象にした論理的思考力を問うテストを平成30年度に試行実施。スマホで実施することが困難であり、かつ適切な問題プールを増やすことが難しいことから、新たな方法として「語彙力テスト」の研究開発に着手。
- ・並行してスタートアップセミナー（1年生向け前期必修科目）において、2サイクルを通じて提出される課題やレポートをデータマイニングし、事前事後比較して学生の日本語運用能力や文章力向上を客観的な指標により把握できる手法の研究開発に着手。
- ・以上を踏まえ、まず入学時に学生の「語彙力」を測定し、入学後のスタートアップセミナーの課題やレポートの事前事後比較の結果、2年始業時の「語彙力」の測定結果を用いて、基盤共通教育における学生の学習の達成度を客観的に把握する取組を試行的に実施する。

語彙力テストの目的

語彙 ≡ Vocabulary

→ 語彙は、日本語力の中でも主要な基本要素

→ ある言語、ある地域・分野、ある人、ある作品など、それぞれで使われる単語の総体。

広さ: どのぐらいの語彙を知っているか

深さ: 特定の語彙をどのぐらい知っているか

- 山形大学で実施する語彙力テストは「深さ」の測定に主眼を置き、以下の目的の下で実施する。
 - ① 高校教育を経て本学に入学してくる学生が、大学の授業において日常的に用いられている基本的な語彙について、どの程度、理解しているのかを測定する。
 - ② 1年間の基盤共通教育を経た後に、入学時に理解できなかった語彙に対する理解がどの程度、向上しているのかを測定する。
 - ③ 上記を通じて、授業内容の検討、シラバスの記載内容等、大学における学びの向上や教育の質保証強化に資する取組の参考情報として活用する。

開発に当たっての基本的な考え方

汎用的・基本的な データソース

- ・学術基本用語集 434語
〔角(2010)〕
- ・日本語学術共通語彙リストDB 2592語
〔松下(2011)〕
- ・科学技術用語 約33万語
〔J-GLOBAL〕

山形大学固有の データソース

・2013-2018年の基盤共通教育のシラバス
(対象科目数:4713)

授業目的 12413語

到達目標 10576語

キーワード 7279語

授業計画 7739語

山形大学
オリジナルの
語彙リスト

スタートアップセミナー
Start-up Seminar
担当教員:丸山 茂己(MARUYAMA Masami)
担当教員の所属:人文社会科学部人文社会科学科総合法律コース
開講学年:1年 開講学期:前期 単位数:2単位 開講形態:演習
開講対象: 科目区分:

【授業の目的】
この授業は、グループ学習により具体的なテーマへ取り組むことで、調査・情報収集、議論、発表、レポート作成といった大学生として必要な基本的な学習スキルの向上をはかるとともに、様々な立場や考え方を想定した上での課題探求能力を伸ばし、大学での学びの基礎となる知識・技能・態度を身につけることを目的としている。

【授業の到達目標】
この講義を履修した学生は、
【知識・理解】
(1) 文献・資料を理解し読み込む力(読解力)を身につけることができる。
【知識・理解】
(2) 自分の関心のあるテーマを設定し、関連する情報・資料収集を行い、批判的検討を行い議論を出し、その一連の内容を口頭で他者に伝えるとともに、文章に記述して発表することができる【技能】
(3) あるテーマに対しグループ協働により課題を発見し、調査と議論を通じて課題を深め理解を深め、結論を見出し共有していることができる。
【態度・習慣】

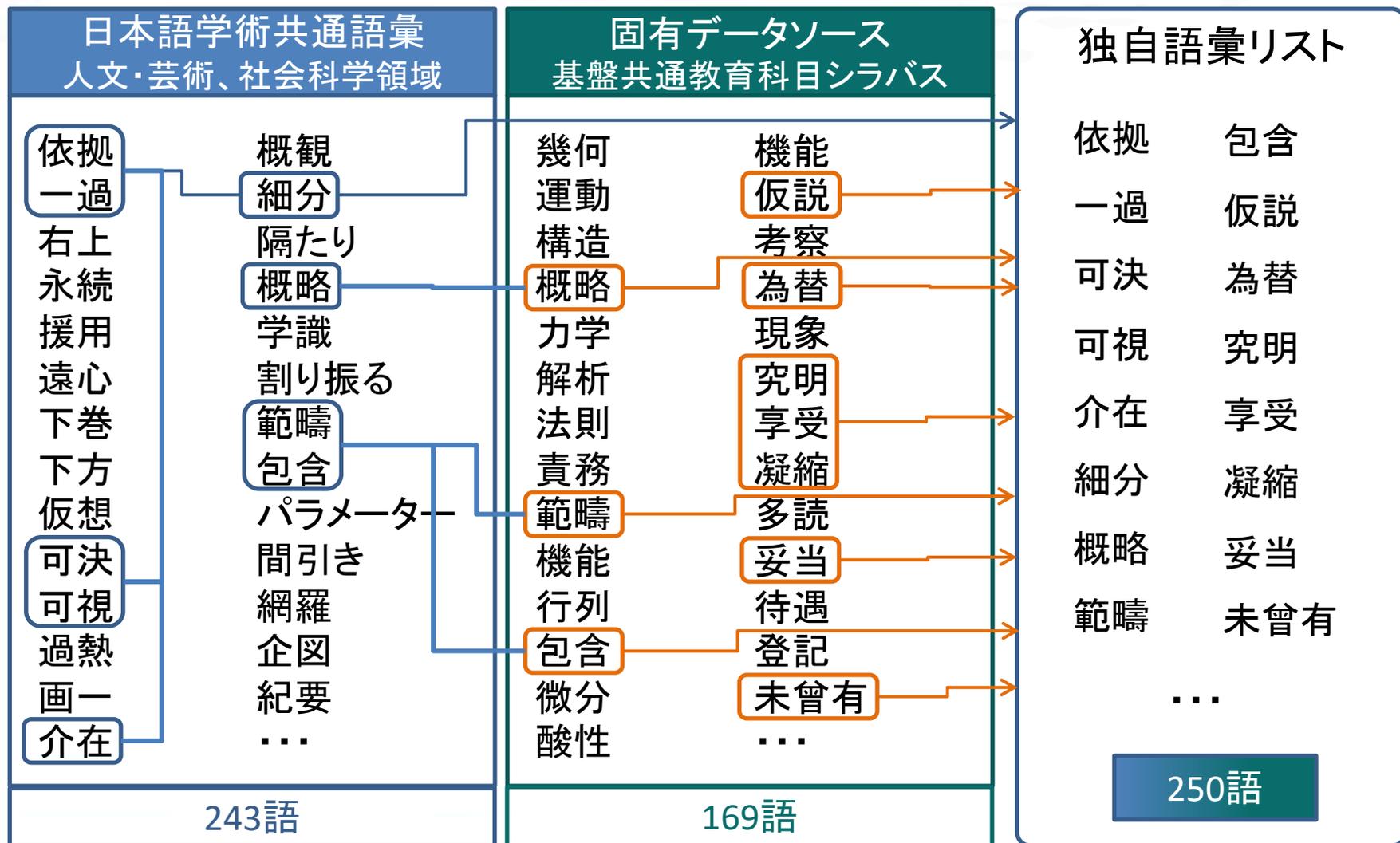
【授業概要(キーワード)】
学生主体型授業(アクティブラーニング) 調べ学習 課題探求能力、コミュニケーション能力、情報収集能力

【科目の位置付け】
この授業は、大学での主体的な学習にスムーズに対応できるよう、調査・情報収集の方法やグループワークによるディスカッションやプレゼンテーション、及びレポートの書き方など主体的・能動的な学習のために必要な技法を習得するためのものである。

【授業計画】
・授業の方法
学生が自らあるいはグループで具体的なテーマについて調査・情報収集に取り組み、それをもちに討論(議論)や発表、レポートの作成を行う学生主体型の授業を実施する。

- ・日程
この授業では
1. グループワークの中で4つの技術(調査・情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート)の基礎と具体的な方法を身につける課題探究型学習を行う
 2. 図書館ツアーをはじめとして文献・資料調査について学ぶ
 3. 課題発見・探究学習の成果についてプレゼンテーションの設計図作成、リハーサルからプレゼンテーションコンテストを行い、相互評価を実施する
 4. 課題発見・探究学習の成果に関するレポートを作成する
 5. ここまでの学びについてリフレクション(省察)を行う

語彙リストの作成



開発スケジュール

2018年
11月

設問構想・
予備調査

- 1年生（文理混合）8名を対象
- 語彙の精選

2018年
12月

設問検討・
試行試験

- 1年生（文理混合）141名を対象
- 各設問の難易度を推定

2019年
2月

YU-Portal
実装

2019年
4月

本試験
1年生

- 平成31年度入学生のうち、人社、地教の学生（約470名）を対象に実施

語彙カテストの設問例

YU Portal（スマートフォンアプリ）での実施に合わせた選択肢の設定

問1. 「**概観**: **概観**を示す」について、最も適当なものを以下の選択肢から一つ選べ。

1. 詳しい内容のこと
2. 自己主張すること
3. 全体のあらましのこと
4. 他の人に説明すること
5. わからない

問2. 「**学識**: **学識**がある」について、最も適当なものを以下の選択肢から一つ選べ。

1. 学問的評価が高いこと
2. 博士号を持っていること
3. 人脈が広いこと
4. 人望が厚いこと
5. わからない

SORRY



当日投影のみ

SORRY



当日投影のみ

SORRY



当日投影のみ

まとめと今後の展望

まとめ

- 大学での学びや社会で強く求められている思考力を直接測定する手段の一つとして、語彙力テストを独自開発し、2019年度入学者から実施
- 基盤力テストの実施基盤であるYU Portalを活用し、効率的かつ効果的にテストを実施
- 2019年度入学者の実施結果から、教育プログラムによって能力値 (θ) に差は見られるものの、設問と難易度の推定は概ね想定していたレベル
→継続的な検証が必要

今後の展望（1）

- 2019年度入学生の能力値を基に、大学入学時のベースライン確立、能力値の増減の分析など
- 先行研究、専門教育のシラバスを基に3年次用の問題の開発（語彙力のみならず専門、英語への展開を模索中）
- 教育プログラムごとに基盤カテストの結果、出欠や成績情報などをカリキュラム・マップと照合し、各種IR分析を試行
→アセスメントの設計と実施からIEへの活用

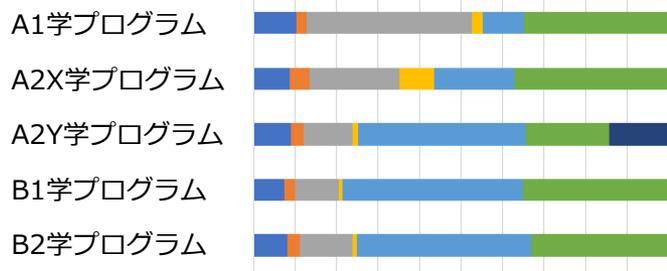
今後の展望（2）

教育課程の編成・実施方針（CP）				カリキュラム				学位授与の方針（DP）			
CP1	CP2	...	CPn	科目名	担当教員	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	...	DPn
	○		○	サイエンス・スキル	山形太郎 山形花子	化学、生物、物理学及び生化学の基礎知識を涵養する。	(1)○○に関する基礎知識を把握できている。 (2)△△に関する理論を理解できる。 (3)◇◇的なものの方見方を身に付けている。	(1)△ I (2)◎ R (3)○ M	(1)△ A		

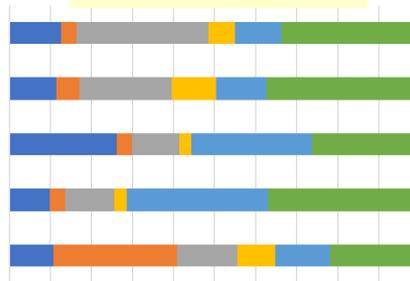
◎ DP達成のために特に重要な事項
○ DP達成のために重要な事項
△ DP達成のために望ましい事項

I: Introduced
R: Reinforced
M: Mastered
A: Assessed

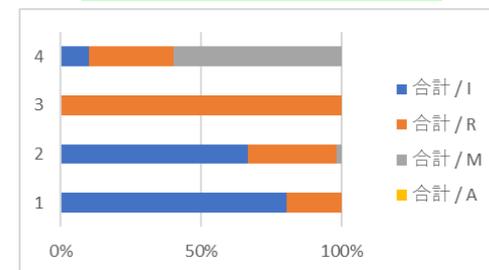
CPとの対応状況



DPとの対応状況



カリキュラムの順次性



語彙力テストの開発は、一般財団法人大学IR総研「大学IRの充実に資する研究または実践活動への助成」（研究代表者：浅野茂）を受けて実施しております。

本報告に対するご意見、お問い合わせは、
以下までお願い申し上げます。

e-mail: asano@cc.yamagata-u.ac.jp